

授業科目 (科目ID)	英語Ⅲ	担当教員 (実務経験)	板東 真一 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内高校で英語教諭として10年以上勤務。		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	英語Ⅲでは、将来の医療現場で役に立つ基本的なコミュニケーション能力を育成することを目的とする。				
到達目標	①平易な英語で話したり書いたりできる。②日常生活に関する平易な英文を読んだり聞いたりできる。③医療に関する基本的な専門用語を理解できる。				
テキスト・ 参考図書等	(教)GET BY IN ENGLISH 1 Starter (コミュニケーションのための実践英語1[入門編]) 著者 Julyan Nutt / Michael Marshall / 倉橋洋子 / 宮田学 発行所 三修社				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50%	①すべての評価は、到達目標に照らして行う。 ②提出物の完了を成績評価の前提とする。 ③その他は、授業参加と授業への発言回数を評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	20%			
	その他	30%			
履修上の 留意事項	医療の専門職を目指すものとして、真摯で意欲的な学習を期待する。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	Warm-up Unit Welcome to English Class!	1.Classroom language 2.Practice patterns		
	2	Unit 1 May I ask your name?	Part A		
	3	Unit 1 May I ask your name?	Part B		
	4	Unit 2 What does your sister do?	Part A		
	5	Unit 2 What does your sister do?	Part B		
	6	Unit 3 How often do you eat out?	Part A		
	7	Unit 3 How often do you eat out?	Part B		
	8	Review 1	Interview test		
	9	Unit 4 What do you like to do?	Part A		
	10	Unit 4 What do you like to do?	Part B		
	11	Unit 5 Is there a convenience store near here?	Part A		
	12	Unit 5 Is there a convenience store near here?	Part B		
	13	Unit 6 Are there any class rules?	Part A		
	14	Unit 6 Are there any class rules?	Part B		
15	Review 2, 学習のまとめ	Interview test, 振り返り			

授業科目 (科目ID)	英語IV	担当教員 (実務経験)	板東 真一 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内高校で英語教諭として10年以上勤務。		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	英語IVでは、将来の医療現場で役に立つ基本的なコミュニケーション能力を育成することを目的とする。				
到達目標	①平易な英語で話したり書いたりできる。②日常生活に関する平易な英文を読んだり聞いたりできる。③医療に関する基本的な専門用語を理解できる。				
テキスト・ 参考図書等	(教)GET BY IN ENGLISH 2 Elementary (コミュニケーションのための実践英語2[初級編]) 著者 Julyan Nutt / Michael Marshall / 倉橋洋子 / 宮田学 発行所 三修社				
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	50%	①すべての評価は、到達目標に照らして行う。 ②提出物の完了を成績評価の前提とする。 ③その他は、授業参加と授業への発言回数を評価する。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	20%			
	その他	30%			
履修上の 留意事項	医療の専門職を目指すものとして、真摯で意欲的な学習を期待する。				
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	Unit 1 What did you do last night?	Part A		
	2	Unit 1 What did you do last night?	Part B		
	3	Unit 2 What's the weather like?	Part A		
	4	Unit 2 What's the weather like?	Part B		
	5	Unit 3 Do you have any plans for New Year?	Part A		
	6	Unit 3 Do you have any plans for New Year?	Part B		
	7	Review 1	Interview test		
	8	Unit 4 What does he look like?	Part A		
	9	Unit 4 What does he look like?	Part B		
	10	Unit 5 What's it like?	Part A		
	11	Unit 5 What's it like?	Part B		
	12	Unit 6 How was your trip?	Part A		
	13	Unit 6 How was your trip?	Part B		
	14	Review 2	Interview test		
15	学習のまとめ	振り返り			

授業科目 (科目ID)	保健体育Ⅱ		担当教員 (実務経験)	大桑敏夫 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内高校で保健体育教諭として40年以上勤務。		
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義・実技		授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	自分の健康と人々の健康のあり方について学ぶ。、スポーツをとおしてその意義と重要性を知るとともに、人とのコミュニケーション能力を養う。					
到達目標	感染症対策の必要性と命を守るための応急手当や救命処置について学ぶ。また私たちの健康を支えている保健・医療のしくみやその活用を理解する。スポーツをとおして心身の健康を維持・向上させるとともに、他者を思いやる心を養う					
テキスト・ 参考図書等	大修館現代高等保健体育					
評価方法 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	50%	・定期試験50%－解答率の評価 ・平常点20% (レポート内容・丁寧さ、小テスト－解答率の評価(学習のまとめで実施)、提出物－期日厳守) ・体育実技30%－取り組み・姿勢・協調性など総合的に判断 (段階評価:5応用的に動くことができる/4周りを巻き込んで積極的に取り組める/3進んで参加できる/ 2基本的ルールを知っている/1自ら動き出すことが少ない)			
	レポート	20%				
	小テスト					
	提出物					
体育実技	30%					
履修上の 留意事項	保健の講義は教室で行う。体育は北海道スポーツ専門学校校の体育館を利用する。服装は運動に適した服装で参加する。					
保健 履修主題・内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	現代の感染症と予防	コロナウイルスをはじめとする感染症の昔と現在の現状とその予防について			
	2	応急手当の意義	応急手当の意義とその手順について			
	3	心肺蘇生法の意義	心肺蘇生法の意義と原理およびその手順について			
	4	日常的な応急手当	けがの応急手当と熱中症の応急手当について			
	5	保健制度とその活用	保健行政の役割と健康づくりおよび保健サービスの活用について			
	6	医療制度とその活用	医療制度と医療保険のしくみ、医療機関と医療サービスについて			
	7	医薬品と健康	医薬品の種類と使い方および医薬品の安全性のための対策について			
体育 履修主題・内容	8	スポーツの実践(1)	準備運動・基礎運動(縄跳び・リズムステップ・その他)・筋力トレーニング バレーボール・バスケットボール・バドミントン・その他 (練習及び試合)			
	9	スポーツの実践(2)	準備運動・基礎運動(縄跳び・リズムステップ・その他)・筋力トレーニング バレーボール・バスケットボール・バドミントン・その他 (練習及び試合)			
	10	スポーツの実践(3)	準備運動・基礎運動(縄跳び・リズムステップ・その他)・筋力トレーニング バレーボール・バスケットボール・バドミントン・その他 (練習及び試合)			
	11	スポーツの実践(4)	準備運動・基礎運動(縄跳び・リズムステップ・その他)・筋力トレーニング バレーボール・バスケットボール・バドミントン・その他 (練習及び試合)			
	12	スポーツの実践(5)	準備運動・基礎運動(縄跳び・リズムステップ・その他)・筋力トレーニング バレーボール・バスケットボール・バドミントン・その他 (練習及び試合)			
	13	スポーツの実践(6)	準備運動・基礎運動(縄跳び・リズムステップ・その他)・筋力トレーニング バレーボール・バスケットボール・バドミントン・その他 (練習及び試合)			
	14	スポーツの実践(7)	準備運動・基礎運動(縄跳び・リズムステップ・その他)・筋力トレーニング バレーボール・バスケットボール・バドミントン・その他 (練習及び試合)			
	15	スポーツの実践(8)	準備運動・基礎運動(縄跳び・リズムステップ・その他)・筋力トレーニング バレーボール・バスケットボール・バドミントン・その他 (練習及び試合)			

授業科目 (科目ID)	内科学	担当教員 (実務経験)	鬼原彰 市内の医科大学にて内科学教授として教育に従事、その後、市内病院で内科医として勤務。		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	内科疾患全般について、その原因と症状、および検査・診断・治療法を広く理解する				
到達目標	・各臓器系統別に疾患の成り立ちと診断・治療上の要点を学び、対象患者の病態把握に役立つ				
テキスト・参考図書等	(教)内科学 第4版(標準理学療法学・作業療法学 専門基礎分野) 発行所:医学書院				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	定期試験にて評価を行う。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の留意事項	欠席せず、予習復習をすること。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	内科学総論	総論		
	2	骨関節疾患	骨・筋肉・関節の疾患と病態		
	3	神経系によるコントロール	ニューロンによるコントロールと脳神経系疾患		
	4	内分泌系によるコントロール	ホルモンによるコントロールと内分泌系疾患		
	5	免疫系によるコントロール	免疫によるコントロールとアレルギー-膠原病		
	6	消化器系・代謝系疾患総論	消化器系疾患総論		
	7	消化器系疾患(食道～大腸)	消化管疾患の診断・治療		
	8	肝・胆のう疾患	胆のう疾患の診断・治療		
	9	膵疾患	膵臓系疾患の診断・治療		
	10	代謝系疾患(肥満・糖尿病・脂質異常症)	代謝疾患の診断・治療		
	11	循環器(肺・心・腎)・血液系疾患総論	総論		
	12	呼吸器疾患	呼吸器疾患の診断・治療		
	13	心・血管疾患	心・血管疾患の診断・治療		
	14	腎疾患	腎疾患の診断・治療		
15	血液疾患	血液疾患の診断・治療			

	小児科学	担当教員 (実務経験)	土畠智幸 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内病院にて小児科医として15年以上勤務		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	「子どもは小さな大人ではない」。子どものからだの特徴、子ども特有の疾患・病態について学ぶ。また、近年その重要性が増している障害児の問題、障害児に対する医療の提供体制について重点的に学ぶ。				
到達目標	正常発達について学ぶ ・子どもに特有の疾患・病態を正しく理解する ・障害児を取り巻く医療的問題について学ぶ				
テキスト・参考図書等	(教) 言語聴覚士のための基礎知識 小児科学・発達障害学 第3版 著者名:宮尾益知編 発行所:医学書院 (参) 障害児者の摂食・嚥下・呼吸リハビリテーション その基礎と実践 著者名:金子芳洋修、尾本和彦編 発行所:医歯薬出版				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	定期試験により評価する		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の留意事項	講師の都合により、履修主題の順序が変更になることがある。				
履修主題・履修内容		履修主題	履修内容		
	1	小児の発達・成長、小児保健、小児疾患の診断法	発達・成長を含め、小児のみかたについて学ぶ		
	2	遺伝疾患と先天異常、新生児疾患	新生児を取り巻く問題について学ぶ		
	3	神経・骨・筋肉疾患	神経の異常や、筋力低下を招く疾患について学ぶ		
	4	循環器疾患、呼吸器疾患	心臓と呼吸の疾患について学ぶ		
	5	感染症、消化器疾患	感染症と消化管の疾患について学ぶ		
	6	内分泌・代謝疾患、免疫・アレルギー疾患、膠原病	複数の臓器にに影響する疾患について学ぶ		
	7	腎・泌尿器・生殖器疾患、血液疾患・悪性腫瘍	腎臓と子どものがんについて学ぶ		
	8	心身症・神経症、眼科・耳鼻科疾患	こころの問題と周縁領域疾患について学ぶ		
	9	障害児学 1	障害児を取り巻く環境と障害児学、運動機能とその障害について学ぶ		
	10	障害児学 2	知的障害、言語障害、感覚器障害について学ぶ		
	11	障害児学 3	重複障害児、重症心身障害児、障害と認識されにくい「困難」などについて学ぶ		
	12	障害児学 4	発達障害の概念の変遷と診断について学ぶ		
	13	障害児学 5	発達障害の評価とその実施法について学ぶ		
	14	小児在宅医療における多職種連携 1	小児在宅医療における多職種連携について学ぶ		
15	小児在宅医療における多職種連携 2	小児在宅医療における多職種連携について学ぶ			

授業科目 (科目ID)	小児科学	担当教員 (実務経験)	土島 智幸 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内病院にて小児科医として15年以上勤務
対象年次・学期	2年・前期	担当教員	土島 菜々
授業形態	講義	(実務経験)	有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内病院にて小児科医として14年以上勤務
		担当教員 (実務経験)	川村 健太郎 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内病院にて小児科医として10年以上勤務
		担当教員 (実務経験)	鈴木 大真 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内外の病院にて小児科医として10年以上勤務
		担当教員 (実務経験)	三宅 のえる 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内病院にて小児科医として5年以上勤務
		(実務経験)	高井 理人 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内医療機関にて歯科医師として5年以上勤務
		担当教員 (実務経験)	工藤 裕子 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内医療機関にて歯科衛生士として15年以上勤務
		担当教員 (実務経験)	竹内 聖子 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内医療機関にて歯科衛生士として15年以上勤務
		担当教員 (実務経験)	澤頭 荘子 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内医療機関にて言語聴覚士として15年以上勤務
		担当教員 (実務経験)	 有 <input type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>

授業科目 (科目ID)	精神医学	担当教員 (実務経験)	鶴飼 渉 市内医科大学にて大学教員、精神科医として14年以上勤務 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/>		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	10回	時間数	20時間
授業目的	医療人として必要な精神疾患について学ぶ。				
到達目標	精神疾患全般について、その原因・症状・検査法・治療法を理解する。 ①精神医学の方法 ②精神障害の分類 ③精神科症候学 ④精神疾患 ⑤ライフサイクル ⑥精神保健(メンタルヘルス)				
テキスト・参考図書等	(教)精神医学テキスト(改訂第5版) 発行所:南江堂				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	定期試験により評価を行う。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
その他	%				
履修上の留意事項	欠席せず、予習復習をすること。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	精神医学の方法	精神医学の歴史と概念 異常を判定する基準 精神医学特有の方法(了解、追体験、解釈など)		
	2	精神障害の分類	伝統的分類(器質性、内因性、外因性) 国際的診断分類(ICD、DSM)		
	3	精神科症候学	精神機能の諸要素(意識、知覚、思考、記憶、言語、感情 意欲、行動、自我意識など)		
	4	精神疾患	1)器質性精神障害 2)精神作用物質関連障害		
	5	精神疾患	3)統合失調症 4)気分障害		
	6	精神疾患	5)神経症性障害		
	7	精神疾患	6)人格障害 7)精神遅滞、発達障害		
	8	精神疾患	8)摂食障害		
	9	精神疾患	9)睡眠障害 10)性障害及び同一性障害		
	10	ライフメンタル 精神保健(メンタルヘルス)	各年齢期の障害の特徴、精神障害の予防、産業精神医学、自殺		
	11				
	12				
	13				
	14				
15					

授業科目 (科目ID)	リハビリテーション医学		担当教員 (実務経験)	本間 俊一 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 道内の病院にてリハビリテーション医として15年以上勤務		
対象年次・学期	2年・後期		必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	治療医学とは視点の異なるリハビリテーション医学の考え方、診断、治療などを学ぶ。					
到達目標	・ICFに基づいたリハビリテーションの考え方を理解する ・機能障害の評価方法について知る ・疾患ごとのリハビリテーションの考え方、チームアプローチについて理解する					
テキスト・参考図書等	(教)わかりやすいリハビリテーション 著者名:岡島康友 発行所:中山書店					
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	100%	定期試験により評価を行う。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
	その他	%				
履修上の留意事項	欠席せず、予習復習をすること。					
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	リハビリテーション概論	理念・対象と方法、ICF分類			
	2	リハビリテーションのための基礎知識	運動の解剖学、神経生理学、代謝生理学			
	3	機能障害の評価①	運動障害と歩行			
	4	機能障害の評価②	関節可動域、体性感覚と疼痛			
	5	機能障害の評価③	高次脳機能障害、意識障害、呼吸と循環、排せつ、成長と発達			
	6	日常生活動作(ADL)①	ADLの概念、評価			
	7	日常生活動作(ADL)②	ADLの予後診断、介助の実際			
	8	リハビリテーション治療①	物療、運動療法			
	9	リハビリテーション治療②	作業療法			
	10	リハビリテーション治療③	義肢・補装具、工学的アプローチ			
	11	リハビリテーション治療④	チームアプローチ、在宅リハ			
	12	主な疾患のリハビリテーション①	脳損傷、神経・筋疾患、末梢神経障害			
	13	主な疾患のリハビリテーション②	脊損、切断、骨・関節疾患、小児(CP、筋ジス、二分脊椎)			
	14	主な疾患のリハビリテーション③	呼吸器疾患、循環器疾患			
15	主な疾患のリハビリテーション④	自己免疫・膠原病、がんのリハビリテーション				

授業科目 (科目ID)	臨床神経学	担当教員 (実務経験)	中村 仁志夫 北海道大学医療短大部22年、同医学部保健学科3年教員として勤務		
対象年次・学期	2年・後期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	障害克服の戦略(リハビリテーション計画)を作成するうえで欠かすことができない神経系の働きと障害(疾患)のおこり方を理解することで、医療専門職としての基本的認識を獲得する。				
到達目標	神経系の成り立ちと働きおよび代表的疾患(病態)について学習し、体系的知識を獲得して専門職としての臨床的応用に備えることを目標とする。				
テキスト・参考図書等	(教)「病気が見える」第7巻 脳・神経系」第2版 著者名:尾上尚志ら 発行所:メディック・メディア (参)「医療系学生のための病理学」第5版 著者名:中村仁志夫ら 発行所:講談社 「日本人の脳」 著者名:角田忠信 発行所:大修館書店				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	70%	筆記試験(70点満点)と提出物(30点満点)とを合わせた総合点(100点満点)評価を行う。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	30%			
その他	%				
履修上の留意事項	1)ノート作成に血道をあげ過ぎることなく、教科書等に書き込みや文献引用の付箋貼付をする方が効率的である。 2)解剖学・生理学の知識は絶えず復習すること。 3)日常的に新聞や雑誌の医療関係の記事をよく読むこと。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	神経系の解剖と生理(1)	神経細胞の特殊性、脳機能の局在、高次脳機能の配置、優位半球と劣位半球、脳血管の解剖、髄液循環、血液脳関門、グリアの役割		
	2	神経系の解剖と生理(2)	運動系:錐体路と錐体外路、感覚系:表在感覚と深部感覚、自律神経系:交感神経と副交感神経		
	3	神経症候学(1)麻痺の呼び方、失語症、意識障害	麻痺の種類、運動性失語と感覚性失語、意識障害の分類、脳死と植物状態		
	4	神経症候学(2) 神経学的検査法の意義と関連する病態	画像検査(CT,MRI)、脳波とてんかん、髄液検査、不随意運動、自律神経系		
	5	認知症	アルツハイマー型、脳血管性、レビー小体型、前頭・側頭型、脳血管性、正常脳圧水頭症		
	6	脳血管障害、頭部外傷	脳卒中(脳梗塞、脳出血、くも膜下出血)、脳挫傷、脳震盪、硬膜外血腫、硬膜下血腫		
	7	神経系の感染症	髄膜炎と脳炎、細菌性感染症、単純ヘルペス脳炎、帯状疱疹、日和見感染と潜伏感染		
	8	脱髄疾患、先天代謝異常	多発性硬化症、ADEM、副腎白質ジストロフィー、ハーラー病など		
	9	系統変性疾患(1)錐体路系と錐体外路系	運動ニューロン病(ALSなど)、パーキンソン病とパーキンソン症候群		
	10	系統変性疾患(2)脊髄小脳系とミトコンドリア脳筋症	脊髄小脳変性症、多系統萎縮症(シャイ・ドレージャー病など)、ハンチントン病、ホリグルタミン病、MELAS、MERRF		
	11	脳腫瘍	グリオーマと非グリオーマ、髄膜腫、下垂体線種、シュワン細胞腫、松果体腫瘍、母斑症(フォン・レックリングハウゼン病など)		
	12	神経筋疾患	筋ジストロフィー症(デュシェンヌ型など)、重症筋無力症、多発性筋炎、皮膚筋炎		
	13	末梢神経障害、栄養障害性疾患	糖尿病性ニューロパチー、がん性ニューロパチー、ギラン・バレー症候群、ウェルニッケ脳症(ビタミンB1欠乏)、脊髄連合変性症(ビタミンB12欠乏)		
	14	中毒性疾患	水俣病、SMON、一酸化炭素中毒、砒素中毒、薬物中毒、アルコール中毒など、依存症の問題点		
15	脳死と心臓死、プリオン病	脳死と植物人間の違い、クロイツフェルト・ヤコブ病(プリオン病)			

2023年度

専門学校北海道リハビリテーション大学校

言語聴覚学科

授業科目 (科目ID)	歯科口腔外科学		担当教員 (実務経験)	三古谷 忠 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 市内大学病院にて研究・教育に20年以上従事		
対象年次・学期	2年・前期		必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義		授業回数(1回90分)	20回	時間数	40時間
授業目的	歯・口腔・顎・顔面領域の機能・解剖や疾患について学び、言語聴覚士として必要な知識を身につける。					
到達目標	・一般的な歯科診療について理解する ・口腔・顎・顔面領域の疾患と治療の流れを理解する ・各種形成手術の術式を理解する					
テキスト・ 参考図書等	(教)書名:言語聴覚士のための臨床歯科学・口腔外科学 著名:道 健一 発行:医歯薬出版					
評価方法・ 評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準			
	試験	100%	定期試験により評価を行う。			
	レポート	%				
	小テスト	%				
	提出物	%				
その他	%					
履修上の 留意事項	欠席せず、予習復習をすること。					
履修主題・ 履修内容	回数	履修主題	履修内容			
	1	歯・口腔の構造	歯の構造・発生・萌出・歯周組織の構造、舌、唾液腺			
	2	歯・歯周組織の疾患と治療	う蝕、歯周炎、保存、補綴、歯科矯正などの治療			
	3	歯・歯周組織の疾患と治療	う蝕、歯周炎、保存、補綴、歯科矯正などの治療			
	4	口腔ケア	口腔ケアの意義と役割			
	5	摂食嚥下障害	口腔機能が関わる摂食嚥下障害解剖、生理			
	6	皮膚・顎・顔面の構造	口腔顎顔面の障害に関わる解剖、生理			
	7	歯性感染、口腔顎顔面の損傷	歯性感染症、口腔軟組織損傷、歯・顎骨の損傷の病態、診断、治療			
	8	歯性感染、口腔顎顔面の損傷	歯性感染症、口腔軟組織損傷、歯・顎骨の損傷の病態、診断、治療			
	9	形成外科	潰瘍、熱傷、放射線障害、褥瘡、肥厚性瘢痕、瘢痕拘縮、植皮と皮弁			
	10	口腔・顎・顔面の先天異常	先天異常の成因、病態			
	11	口唇・口蓋裂	口唇口蓋裂の成因、病態、診断、治療			
	12	口唇・口蓋裂	口唇口蓋裂の成因、病態、診断、治療			
	13	器質性構音障害	顎口腔疾患による構音障害			
	14~	口腔・顎・顔面領域の炎症、感染、粘膜疾患、嚢胞、腫瘍、顎関節疾患	各疾患の病態について			
~20	口腔・顎・顔面の再建と機能回復	病態、診断、治療 インプラント、顎顔面補綴				

授業科目 (科目ID)	臨床心理学	担当教員 (実務経験)	風間雅江 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 臨床心理士 公認心理師 スクールカウンセラーなど相談業務に20年以上従事し、道内大学にて研究・教育歴10年以上		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	2単位
授業形態	講義・演習	授業回数(1回90分)	20回	時間数	40時間
授業目的	臨床心理学の基本理論、および心理臨床の実践的アプローチについての専門的知識を習得することを目的とする。				
到達目標	代表的理論モデル、人格理論、心理アセスメント、異常心理学、ライフサイクルの各段階における心理的問題、心理療法の諸技法等について理解することを目標とする。心理検査については、実践を通して体験的に理解する。				
テキスト・参考図書等	(教)よくわかる臨床心理学 改訂新版 著者名:下山晴彦(編) 発行:ミネルヴァ書房				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	60%	定期試験、レポート、平常時の提出課題を合わせて評価する。		
	レポート	20%			
	小テスト	%			
	提出物	20%			
	その他	%			
履修上の留意事項	医療専門職に求められる人間理解と心理的支援のあり方について、講義での学びを通して、改めて問い直し洞察を深めるように意識してください。				
履修主題・履修内容	回数	履修主題	履修内容		
	1	臨床心理学とは何か	臨床心理学の構造、臨床心理学の歴史、理論と実践の関係、他		
	2	基本理論	ナラティブ・アプローチ、エビデンスベースト・アプローチ、生物-心理-社会モデル、他		
	3	人格理論	類型論、特性論、性格検査体験、他		
	4	心理アセスメント	アセスメントの目的、面接法、観察法、質問紙法、投影法、他		
	5	異常心理学	さまざまな精神障害および精神症状の理解と支援、他		
	6	乳幼児期と心理的課題	生涯発達の見点、乳幼児期の特徴、さまざまな発達理論、発達検査、乳幼児期の心理的課題と心理的支援、他		
	7	児童期と心理的課題	児童期の特徴、発達障害、児童期の心理的問題と心理的支援、他		
	8	思春期・青年期と心理的課題	思春期の定義、青年期の位置づけ、思春期・青年期の特徴、アイデンティティの確立、思春期・青年期の心理的問題と心理的支援、他		
	9	中年期と心理的課題	中年期の特徴、転換期に潜む危機、中年期の身体的・心理的・社会的変化、中年期の心理的課題と心理的支援、他		
	10	高齢期と心理的課題	高齢期の特徴、老年的超越、高齢期の心理的課題と心理的支援、他		
	11	クライアント中心療法	クライアント中心療法の歴史、ロジャーズの理論と展開、他		
	12	認知行動療法	行動療法、認知療法、認知行動療法の理論と展開、他		
	13	マインドフルネスを用いた心理療法	マインドフルネスの概念、マインドフルネスに基づく心理支援の理論と展開、マインドフルネス体験、他		
	14	日本で生まれた心理療法	森田療法、内観療法、臨床動作法のそれぞれの理論と展開、他		
15	精神分析、分析心理学	フロイトの精神分析理論、防衛機制、ユングの分析心理学の理論と展開、他			

履修主題・履修内容	16	演習	臨床心理学関連演習
	17	演習	臨床心理学関連演習
	18	演習	臨床心理学関連演習
	19	演習	臨床心理学関連演習
	20	演習	臨床心理学関連演習

授業科目 (科目ID)	認知心理学	担当教員 (実務経験)	菊谷 敬子 有 <input checked="" type="checkbox"/> 無 <input type="checkbox"/> 2年間、心理学実験の一部実験授業を担当 市内大学院在籍		
対象年次・学期	2年・前期	必修・選択区分	必修	単位数	1単位
授業形態	講義	授業回数(1回90分)	15回	時間数	30時間
授業目的	言語聴覚士国家試験の出題範囲である認知心理学についての理解を深め、知識を身につける。				
到達目標	認知心理学の研究手法やメカニズムを学ぶことで、心理学における認知心理学の位置づけや認知の働きを理解する。主に、記憶、思考、言語などの認知機能の特徴とメカニズムについて学ぶ。				
テキスト・参考図書等	テキスト:『言語聴覚士のための心理学 第2版』 著者名:山田弘幸(編) 発行所:医歯薬出版 参考図書:『マイヤーズ心理学』 著者名:D. マイヤーズ 発行所:西村書店				
評価方法・評価基準	評価方法	評価割合(%)	評価基準		
	試験	100%	定期試験の結果で評価を行う。		
	レポート	%			
	小テスト	%			
	提出物	%			
	その他	%			
履修上の留意事項	テキストと配布資料をもとに以下のスケジュールで授業を進め、全体の進行状態に応じてスケジュール等を変更する場合もある。				
履修主題・履修内容		履修主題	履修内容		
	1	認知心理学とは	授業のガイダンスと心理学の中における認知心理学の位置づけ		
	2	記憶	記憶の仕組み・種類		
	3	記憶	記憶の処理・モデル		
	4	記憶	記憶の忘却		
	5	記憶	記憶の構成の誤り		
	6	思考	思考のしくみ、問題解決		
	7	思考	概念		
	8	思考	スキーマ理論		
	9	思考	メタ認知能力について		
	10	推論	演繹推論・帰納推論		
	11	言語	言語と思考		
	12	言語	言語的コミュニケーション・非言語的コミュニケーション		
	13	認知と感情	認知と感情の関係		
	14	対人認知	対人認知・顔の認知		
15	全体のまとめ	まとめと復習			